

私の現場主義



旅先の人たちとのふれあいを大切にしている
(ウガンダのツアー)

(株)道祖神
代表取締役

菊地 優さん
KIKUCHI Masaru

1957年横浜市生まれ。77年に大学を休学し、旅を続けた後、80年に東京観光専門学院入学。同9月に同校を中退し、(株)道祖神入社。87年に企画開発部長などを経て2009年11月より現職。これまでアフリカ54カ国を含め163カ国を旅している



アフリカの魅力を伝えたい

“自前”にこだわる専門旅行を手掛けて35年

アフリカ専門の旅行会社を営んでいます。主にサハラ砂漠以南の東部・西部・南部アフリカを中心に募集型の企画旅行を展開。今年6月には35周年を迎えました。会社名には「旅人の守り神になりたい」という思いを込めています。

子供の頃から旅が好きで、中でもアフリカに魅せられ、この目で見てみたい、旅してみたいと考えるようになりました。その思いは成長してますます強くなり、大学を休学し、旅行に出ることに。横浜からナホトカに渡り、シベリア鉄道を使って欧州、アフリカ、中近東など1年間で43カ国を訪問しました。その後いったん帰国した後も1年間を掛けて16カ国を回り、帰国してから旅行関連のビジネススクールに入学することにしました。

旅先のアフリカで創業者と知り合ったのが入社きっかけです。現地知り合った旅好きの3人で立ち上げたものですから、当時はお金もなく、アルバイトをしながら業務をしているよう

な状況でした。

その頃国内にはアフリカに関心を持つ人も少なく、公共交通機関も今のようには整備されていませんでしたから、英国製やフランス製のガイドブックや地図を片手にヒッチハイクでの移動が中心でした。食事や宿泊も現地の民宿や住民の世話になったりしますので、旅の印象も強く残ります。そんな状況でしたから、当時の業務も主にお客さんへの情報提供や旅券の手配など、バックパッカーを応援する内容でした。アフリカ地域を扱う旅行会社は当時もありましたが、専門に手掛けていたのは当社だけだったと思います。

自前のツアーを企画する“メーカー”であることにこだわりを持っています。ケニア支店や南アフリカ支店には日本人社員を駐在させており、添乗員も自社スタッフしか使いません。現地の旅行会社との付き合いも長く、商品も社員が自分の足で稼いできた情報や経験を基に企画しています。参加費も決して安くありませんが、そのぶん、

お客さん1人1人に時間を掛けています。

地域別には、東アフリカはサファリツアーなど野生動物、西アフリカは民族性、南部アフリカは雄大な自然をそれぞれ打ち出した商品が多いです。かつては若い層の顧客が多数派だったのですが、最近では年配の人たちも増えています。ケニアをはじめ東アフリカで結婚式を挙げたいというお客さんも多くなっていて、今では年50組くらいが現地で挙式を挙げています。

日本では依然、アフリカは遠い、不便、危険といった負のイメージで捉えられる傾向が強い。それでも当社の場合、最近では顧客数が年2,500~3,000人、売り上げが同16億円前後で安定的に推移しています。専門色が強いので、お客さんもリピーターが4割を占めています。

旅行説明会や相談会、語学講座や文化講座、さらにはネットでの発信と併せて、これからもアフリカの魅力を伝えていきたいです。